

2 研究の実際

(1) 新学習指導要領に関わる理論研究

ア 中学校美術科で育成を目指す資質・能力について

中央教育審議会答申で、現行学習指導要領の小学校図画工作科、中学校美術科及び高等学校芸術科（美術，工芸）における成果と課題が示され、新中学校学習指導要領では具体的な方向性に基づいて改訂が行われました。中学校美術科の目標は、他教科と同様に(1)「知識及び技能」、(2)「思考力，判断力，表現力等」、(3)「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱で整理され次のように示されています⁽¹⁾。

- | |
|---|
| <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。</p> |
|---|

文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成 29 年 3 月 p.107

中学校美術科の目標の実現に向けては、上記の (1)，(2)，(3) に示されている資質・能力を相互に関連させながら育成できるような実践を推進していくことが求められています。このことを踏まえ本研究では、新中学校学習指導要領解説美術編で目標について説明された内容を整理し、中学校美術科で育成を目指す資質・能力を次のように捉えることとします。

知識及び技能

- ・造形の要素の働きや、造形的な特徴などを基にして全体のイメージなどを捉えるために必要な視点について理解すること。
- ・発想や構想したことを基に、意図に応じて自分の表現方法を見付け出し表現すること。

思考力，判断力，表現力等

- ・形や色彩などから感じるよさや美しさ、作品に込められた作者の心情や表現の意図と工夫、身の回りの形や色彩、材料などの造形や美術の働きなどについて考える力。
- ・強く表したいことを、心の中に思い描き、主題を基に対象を再度深く見つめたり内面や本質を捉え直したりして、豊かに発想し構想を練る力。
- ・自然の造形や美術作品、伝統工芸や文化遺産などに対して鑑賞の視点を豊かにもち、対象や事象の見方や感じ方を深める力。

学びに向かう力，人間性等

- ・やりたいことを見付け、自らの生きる意味や価値観をもち、自分にしかない価値をつくりだし続ける意欲。
- ・学校内外の生活や将来の社会生活も見据え、生活や社会を「造形的な視点」で幅広く捉え、美術の表現や鑑賞に親しんだり、生活環境を美しく飾ったり構成したりするなどして、心潤う生活を創造しようとする態度。
- ・美しいものやよりよいものにあこがれ、それを求め続けようとする豊かな心の働き。

イ 中学校美術科における「造形的な見方・考え方」及び「造形的な視点」の捉え方

新中学校学習指導要領で、中学校美術科の目標は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」⁽²⁾と示されています。教科における学びを深め、資質・能力を育成していくためには、この「見方・考え方」を働かせていくことが重要です。中学校美術科の「造形的な見方・考え方」も他教科と同様に教科としての特徴を反映するものであり、

学びを深めるために欠かすことのできないものです。目標に出てくる「造形的な見方・考え方」については、次のように説明されています⁽³⁾。

造形的な見方・考え方とは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 美術編』 平成 29 年 7 月 p. 10

「造形的な見方・考え方」を働かせるためには、表現及び鑑賞のそれぞれの活動において、「造形的な視点」を基に、どのような考え方で思考するのかということ、一人一人の生徒にしっかりとめさせるようにすることが重要になります。この「造形的な見方・考え方」の説明に出てくる、対象や事象を捉えるための「造形的な視点」は、次のように説明されています⁽⁴⁾。

造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点のことである。
(下線部：引用者)

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 美術編』 平成 29 年 7 月 p. 10

また、〔共通事項〕については、全学年共通で次の事項を身に付けることができるような指導を行うことが重要だと示されています⁽⁵⁾。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。
(下線部：引用者)

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 美術編』 平成29年 7 月 p. 30

「造形的な視点」の説明の下線部と〔共通事項〕の内容の下線部は共通した文言で、重なっているところが多いことが分かります。今回の学習指導要領改訂で、〔共通事項〕は中学校美術科における「知識」と位置付けられました。この「知識」は、生徒の「造形的な視点」を豊かにするために必要なものと明記されています。つまり、中学校美術科における「知識」は、上記の〔共通事項〕の内容に出てくる造形的な要素や性質などを実感を伴いながら理解するという動的なものであり、この資質・能力の高まりが「造形的な視点」を豊かにし、中学校美術科の学びを深めていくことにつながっていくと言えます。

以上のことから、「造形的な見方・考え方」の根幹をなすとも言える〔共通事項〕を生きて働くものとして習得できるようにすることが、中学校美術科の学びにおいて最も重要な要素の一つだと捉えられます。

ウ 中学校美術科における生きて働く「知識」の捉え方

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」では、中学校美術科における「知識」の習得に際して重要なことが次のように述べられています⁽⁶⁾。

・〔共通事項〕を学習の支えとして、形や色などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること
(下線部：引用者)

文部科学省 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（第2部）」 平成 28 年 8 月 p. 205

また、中央教育審議会答申において、「生きる力」をより具体化するために示された資質・能力の柱の一つである「知識及び技能」の「知識」が、生きて働く概念として習得されるよう提言されました。新中学校学習指導要領解説総則編には次のように説明されています⁽⁷⁾。

芸術系教科における知識は、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくものであることが重要である。教科の特質に応じた学習過程を通して、知識が個別の感じ方や考え方等に応じ、生きて働く概念として習得されることや、新たな学習過程を経験することを通して更新されていくことが重要となる。
(下線部：引用者)

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編』 平成 29 年 7 月 p. 37

また、中学校美術科における「知識」と位置付けられた〔共通事項〕は、新中学校学習指導要領において、指導に当たっては次の事項に配慮するよう示されています⁽⁸⁾。

- ア〔共通事項〕のアの指導に当たっては、造形の要素などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。
- (ア) 色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉えること。
 - (イ) 材料の性質や質感を捉えること。
 - (ウ) 形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること。
 - (エ) 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること。
 - (オ) 余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉えること。
- イ〔共通事項〕のイの指導に当たっては、全体のイメージや作風などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。
- (ア) 造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること。
 - (イ) 造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること。（下線部：引用者）
文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成 29 年 3 月 pp.112-113

以上の引用文献の下線部は、生きて働く「知識」の習得に関わると考えられる部分です。これらのことから本研究では、中学校美術科における生きて働く「知識」の習得を、段階的なものとして図 1 のように捉えることとします。

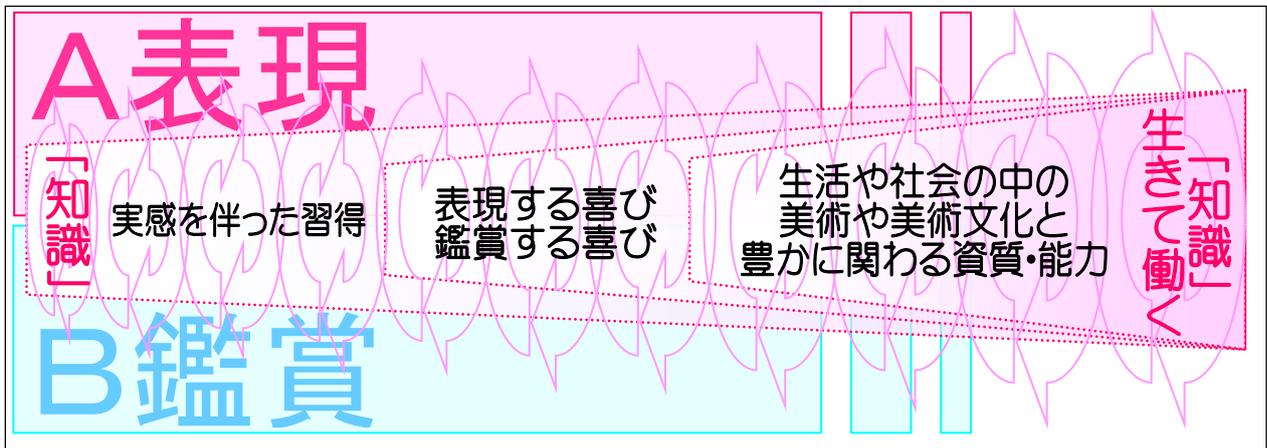


図 1 中学校美術科における生きて働く「知識」の段階的な習得のイメージ

(2) 実態調査

検証授業の対象となる第 2 学年の生徒に実施 (H30. 10) した事前の実態調査の結果は次のとおりでした。

表 1 事前の実態調査結果

質問	選択肢	割合 n=31
(1) 美術科で学んだ「知識」が生かされることはありますか。	1 よくある	3%
	2 少しある	48%
	3 あまりない	35%
	4 ない	14%
(2) 「表現」の授業が好きですか。	1 とても好き	33%
	2 どちらかといえば好き	43%
	3 あまり好きではない	17%
	4 好きではない	7%
(3) 「鑑賞」の授業が好きですか。	1 とても好き	17%
	2 どちらかといえば好き	23%
	3 あまり好きではない	53%
	4 好きではない	7%

表 2 「鑑賞するときにはどのようなところに注目すればよいと思いますか」に対する回答（複数回答可）

回答	人数	回答	人数
色	7	作品の特徴	1
形	5	雰囲気	1
工夫されているところ	5	時間	1
作者の思い・意図	4	大切な部分	1
作品の明るさ	3	丁寧さ	1
人の表情・顔	3	場所	1
描かれているもの・対象	1	見た目	1
構図	1	全体と部分の関係(背景から主役)	1
作品の特徴	1	細部	1

表 3 「美術科での『知識』とはどのようなものだと思いますか」に対する回答（複数回答可）

中学校美術科における「知識」に該当すると捉えられる回答		中学校美術科における「知識」に該当しないと捉えられる回答	
回答内容	人数	回答内容	人数
創造力	2	影を表す	2
道具の名前を知っていること	2	つくるときの工夫の仕方	1
手法(技法)名	1	絵などをきれいに描くためのもの	1
色の名前を知っていること	1	絵のうまさ	1
表現技法	1	絵の才能	1
鑑賞のときの様々な見方	1	絵の描き方	1
どうすればうまくいくのか	1	形をつくる	1
どうすれば自分の想いを作品に取り入れられるか	1	自分の感情を出すこと	1
考える力	1	色のつけ方・方法	1
作品について自分の思ったことを考えること	1	世界に一つだけの作品	1
普通のことを回かで表すこと	1	表現を学ぶ	1
有名な画家の名前	1	描いたり造ったりすること	1
		立体的につくる力	1

表 4 「これからの美術科の授業でどのような力を身に付けたいですか」に対する回答（複数回答可）

「A表現」に限定される資質・能力		「B鑑賞」に限定される資質・能力		領域を限定しない資質・能力	
回答内容	人数	回答内容	人数	回答内容	人数
画力	5	様々な方向からみて鑑賞できる力	2	創造力	3
表現力	3			絵の才能	1
立体的につくる力	2			感動できる能力	1
細かく丁寧に描く力	2			知識	1
器用さ	1			技術	1
きれいに描く	1			感情の表現	1
手法や技法	1				

「美術科で学んだ『知識』が生かされることはありますか」に対しては、「よくある」または「少しある」と回答した生徒が約 51%、「あまりない」または「ない」と回答した生徒が約 49%でした（前頁表 1）。「表現の授業は好きですか」に対しては、「とても好き」または「どちらかといえば好き」と肯定的に回答した生徒が約 76%、「鑑賞の授業は好きですか」に対しては、「とても好き」または「どちらかといえば好き」と肯定的に回答した生徒が約 40%でした（前頁表 1）。鑑賞の授業が好きではないと答えた理由には、「苦手だから」といった具体性に欠ける理由が多く、「分からないから」に類する理由も多く見られました。鑑賞の授業に苦手意識をもっている大きな要因の 1 つは、生徒が造形的な視点を十分に身に付けていないことだと考えられます。一方、中学校美術科で「知識」として位置付けられた〔共通事項〕に関する「鑑賞するときにはどのようなところに注目していますか」に対しては、最も多かった「色」や「形」をはじめとして、表 2 のような回答が見られました。一部の生徒は、鑑賞する際に〔共通事項〕に該当する視点をもっていることが分かりました。「美術科での『知識』とはどのようなものだと思いますか」に対しては、〔共通事項〕（生きて働く「知識」と捉えられる内容を含む）に該当する項目や、技能面に関する回答がそれぞれ見られました（表 3）。「これからの美術科の授業でどのような力を身に付けたいですか」に対しては、表 4 のような回答が見られました。表 3 及び表 4 の回答から、生徒が中学校美術科で高めたいと考えている資質・能力には領域によって偏りがあり、鑑賞での学びが実感的に理解されているとは言い難い状況だということが分かりました。

(3) 本研究における具体的な指導の手立て

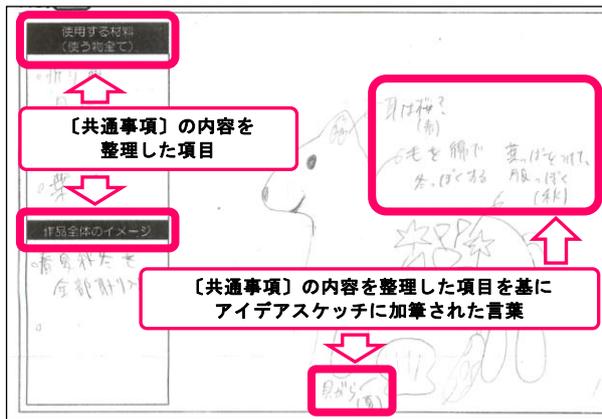
理論研究及び実態調査の結果を基に、具体的な指導の手立てを次のように設定しました。

- ア 鑑賞の活動で使用するワークシート（鑑賞のワークシート）に〔共通事項〕の内容を整理した項目を示す。
- イ アイデアスケッチの活動で使用するワークシート（アイデアスケッチのワークシート）に〔共通事項〕の内容を整理した項目を示す。
- ウ 〔共通事項〕の視点から加筆し表現したいイメージを具体化させ、そのアイデアスケッチを基に立体での表現を行わせる。

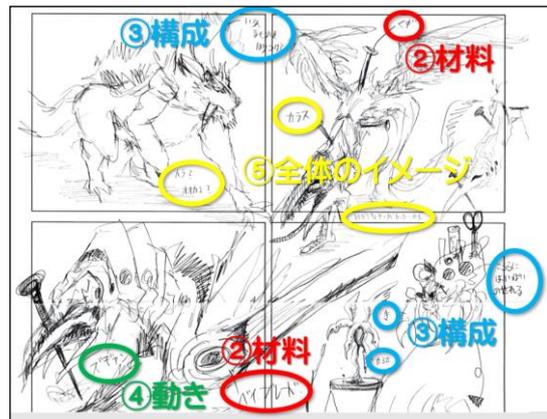
まず、鑑賞の活動の際に明確な視点をもつことができるように、客観的な事実を中心とした造形的な要素に着目させ、〔共通事項〕を身に付けさせることができるような項目を鑑賞のワークシートに示しました（資料 1）。〔共通事項〕アに該当するのは、①色彩の色味や明るさ、鮮やかさ、②材料の性質や質感、③形や色彩、材料、光などが感情にもたらす効果、④構成の美しさ、⑤余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などです。これらを、鑑賞する際に重要な項目として整理し、〔共通事項〕イに該当する「全体のイメージ」を項目に加えて示しました。また、「A表現」と「B鑑賞」の領域をつなげるために、アイデアスケッチのワークシートにも同様の項目を示しました。アイデアスケッチのワークシートには、②材料の性質や質感、全体のイメージを項目として示しました（次頁資料 2）。この 2 つの項目については、別に枠を設けて記入させた方が、生徒の考えやイメージを整理させたり発展させたりしやすいため、アイデアスケッチとは別の場所には書き込めるようにしました。また、鑑賞のワークシートに示した残りの項目については、アイデアスケッチと同じ場所に言葉を書き込んでいけるようにしました。描いたアイデアスケッチ上に言葉を加筆していくことができるようにするために、〔共通事項〕の内容を整理した項目を基にアイデアスケッチに加筆した表現例（モデルとなるプレゼンテーション資料）を提示しました（次頁資料 3）。3 頁図 1 で、「A表現」と「B鑑賞」の 2 領域を往還しながら実感を伴った「知識」の習得を促していくと示しましたが、本研究では、生きて働く「知識」の習得の流れとして、鑑賞の活動から表現の活動に生かす部分に焦点を当てています。本研究の活動が次の鑑賞の活動や表現の活動に生かされながら 2 領域を往還することになり、最終的に生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力につながっていくと考えます。

作品A 画像	色彩や光の見え方のこと			使われている材料のこと			構成（組み合わせ）のこと					
	○色味 ○少し古く見える ○白や黒などの色			○歯車 ○よらい ○鉄			○溶接 ○かみあうように組み立てられている ○横につながる					
	空間・立体感・動きのこと						作品全体のイメージ					
	○マニッシュの立体感 ○人間が生手物に乗っている ○リウの下がゆりかごみたい						○マニッシュの上のっている ○兵士(武士) ○四足歩行ができる機械のよう ○そのけ堀 ○ミッキーと人間					

資料 1 〔共通事項〕の内容を整理した項目を示した鑑賞のワークシート



資料2 アイデアスケッチのワークシート



資料3 アイデアスケッチの説明時に提示した資料

(4) 授業実践

ア 題材名 生物を生み出そう

学習指導案は [ここをClick](#)

イ 題材の目標

- アサンブラージュの手法が活用された作品の鑑賞や、その手法を活用した表現に関心をもって、意欲的に取り組もうとする。(美術への関心・意欲・態度)
- 形や色彩、素材の特性などを踏まえて構成を工夫し、アサンブラージュの効果を意識しながら創造的で豊かな構想を練ることができる。(発想や構想の能力)
- 感性や造形感覚などを働かせて、アサンブラージュの効果を意識しながら形や色彩、素材の特性などを踏まえて構成を工夫し、創造的に表すことができる。(創造的な技能)
- 感性や想像力を働かせて、【共通事項】の視点からアサンブラージュの手法ならではの造形的なよさや美しさ、構成の魅力、創造的な表現の工夫などを感じ取り味わうことができる。(鑑賞の能力)

ウ 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度〔関〕	発想や構想の能力〔発〕	創造的な技能〔技〕	鑑賞の能力〔鑑〕
① アサンブラージュの手法が活用された表現に関心をもって、意欲的に鑑賞しようとしている。 ② アサンブラージュの手法を活用して表現することに興味をもって、意欲的に表現しようとしている。	① 感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に形や色彩、素材の特性などを踏まえて構成を工夫し、アサンブラージュの効果を意識しながら創造的で豊かな構想を練っている。	① 感性や造形感覚などを働かせて、アサンブラージュの効果を意識しながら形や色彩、素材の特性などを踏まえて構成を工夫し、創造的に表現している。	① 感性や想像力を働かせて、【共通事項】の視点からアサンブラージュの手法ならではの造形的なよさや美しさ、構成の魅力、創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。

エ 題材の指導計画と評価計画 (全3時間)

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	○評価規準 〔評価の観点〕 【評価方法】
1	◎【共通事項】の視点で鑑賞を行い、アサンブラージュの手法が活用された表現のよさや工夫を見いだす。 ○アサンブラージュの作品を鑑賞する。 ・アサンブラージュの手法を知り、作品を【共通事項】の視点から鑑賞する。	○アサンブラージュの手法が活用された表現に関心をもって、意欲的に鑑賞しようとしている。〔関①〕【観察】 ○感性や想像力を働かせて、【共通事項】の視点からアサンブラージュの手法ならではの造形的なよさや美しさ、構成の魅力、創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。〔鑑①〕【観察】【ワークシートの記述】
2	◎アサンブラージュの効果を意識しながら構成を工夫し、創造的で豊かな構想を練る。 ○アイデアスケッチを行い、完成予想図を制作する。	○アサンブラージュの手法を活用して表現することに関心をもって、意欲的に表現しようとしている。〔関②〕【観察】 ○感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に形や色彩、素材の特性などを踏まえて構成を工夫し、アサンブラージュの効果を意識しながら創造

	・アサンブラージュの効果を意識しながら構想を練る。	的で豊かな構想を練っている。 〔発①〕 【観察】 【ワークシートの記述】
3	◎形や色彩, 素材の特性などを踏まえて構成を工夫し, 創造的に表現する。 ○アサンブラージュの手法を活用し立体で表現する。 ・素材の特性などを踏まえてアサンブラージュの手法を活用し表現を行う。	○アサンブラージュの手法を活用して表現することに関心をもって, 意欲的に表現しようとしている。〔関②〕 【観察】 ○感性や造形感覚などを働かせて, アサンブラージュの効果を意識しながら形や色彩, 素材の特性などを踏まえて構成を工夫し, 創造的に表現している。〔技①〕 【観察】 【作品】

オ 展開

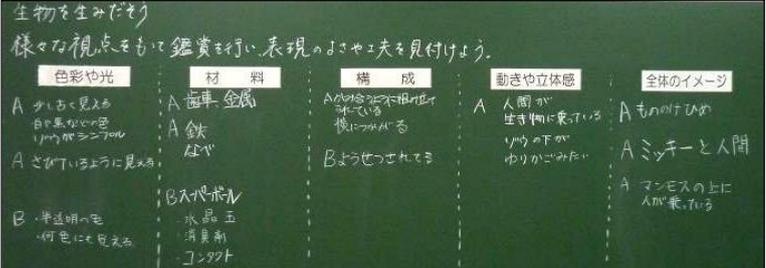
(ア) 1時目

a 本時の目標

ワークシート①は [ここをClick](#)

- アサンブラージュの手法が活用された表現に関心をもって, 意欲的に鑑賞しようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 感性や想像力を働かせて, [共通事項] の視点からアサンブラージュの手法ならではの造形的なよさや美しさ, 構成の魅力, 創造的な表現の工夫などを感じ取り味わうことができる。
(鑑賞の能力)

b 本時の授業展開

過程	学習活動	指導及び支援
導入	1 ロバート・ラウシェンバーグ作「モノグラム」を鑑賞する。	・部分から全体像の順に鑑賞できるようにする。 ・今回取り上げる手法の概要が理解できるように, 「アサンブラージュ」と「ジャンクアート」について簡潔に説明する。
	めあて: 様々な視点をもって鑑賞を行い, 表現のよさや工夫を見付けよう	
展開	2 ヤノベケンジ作「ロッキング・マンモス」を鑑賞する。 3 名和晃平作「PixCell-Double Deer#4」を鑑賞する。 4 グループで気づきを伝え合う。 5 全体で考えを共有する。 ○○さんが発言した「動きや立体感」の視点からの気づきは自分にはなかったな。色ペンで書き加えておこう! 	・[共通事項] の視点をもって鑑賞を行うことができるように, 「色彩や光の見え方」, 「表現材料及び素材」, 「構成」, 「空間や動勢」の4つの視点を与える。 ・全体像の印象を強く感じることができるよう, 部分から全体像の順に鑑賞する。 ・新たな気づきをワークシートに加筆し, 視点ごとの気づきを共有するよう促す。 ・鑑賞の学びを深めることができるように, 作者が語っている表現のコンセプトや構成されている素材の情報を与える。 ・様々な視点をもって鑑賞した内容を全体で共有し, 表現のよさや工夫を感じ取るためには鑑賞の視点が重要であることを実感できるようにする。
	6 鑑賞した作品のコンセプトを知る。 7 鑑賞で学んだことを振り返る。	 <p style="text-align: center;">全体で考えを共有する場面の板書例</p>
終末	8 次時の見通しをもつ。	・次回から行う表現について簡潔に説明し, 次時の活動のイメージをもたせる。

(イ) 2時目

a 本時の目標

ワークシート②は [ここをClick](#)

- アサンブラージュの手法を活用して表現することに関心をもって、意欲的に表現しようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に形や色彩、素材の特性などを踏まえて構成を工夫し、アサンブラージュの効果を意識しながら創造的で豊かな構想を練ることができる。
(発想や構想の能力)

b 本時の授業展開

過程	学習活動	指導及び支援
導入	1 前時の活動を振り返り本時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を想起して本時の活動に入ることができるように、今回活用する手法の概要や、視点を基に鑑賞した作家の作品などを提示して簡単に振り返らせる。 ・本時の大まかな流れを示し、活動に見通しをもつことができるようにする。
めあて：素材の構成を工夫しながらアイデアスケッチをして、イメージを広げよう		
展開	2 表現に使用できる素材及び構成するためのつなぐ素材を確認する。 3 アイデアスケッチを行う。 アイデアスケッチにも、鑑賞で学んだ視点を基に言葉を付け加えておこう！	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に使用するための多様な素材（土台、ビー玉、ビーズ、ボタン、針金、クリップ等）を提示する。 ・素材同士をつなぐ材料（接着剤各種、グルーガン）を提示し、注意事項を説明する。 ・現存する生物や過去に存在したとされる生物、空想上の生物などから、表現したい作品全体のフォルムやイメージを広げられるように、いくつかの資料を提示し、確認できるようにしておく。 ・ワークシートの視点を基に様々な素材からイメージを広げ、構成の工夫を考えていくように促す。 ・構成する素材や、素材をつなぐための材料、鑑賞で学んだ視点から考えた内容などをアイデアスケッチに言葉で加筆するよう促す。 ・つくりたい生物のフォルムを確かめたい場合や発想が広がらない生徒には、参考資料を提示する。
終末	4 次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は立体的な表現を行うことを伝え、次時の活動のイメージをもたせる。

立体の表現をする上で大切なこと
 ※材料をさわりながら（つくりながら）考える
 ※つくりながらアイデアスケッチに加筆する

配付する材料

- ◎一人ずつ配付する材料
 - ・土台(木材)1つ ・針金1m ・釘4本(固定用):後で
- 数に限りがある材料
 - ・針金(予備) ・紙粘土 ・その他各種材料
- ◎一人ずつ使用できる道具
 - ・ペンチ
- 数に限りがある道具
 - ・金槌20本 ・グルーガン10台 ・テープ類
 - ・瞬間接着剤約40個 ・その他接着剤数種

提示資料(材料や道具について)

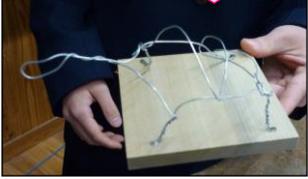
(ウ) 3時目

a 本時の目標

- アサンブラージュの手法を活用して表現することに関心を持ち、意欲的に表現しようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 感性や造形感覚などを働かせて、アサンブラージュの効果を意識しながら形や色彩、素材の特性などを踏まえて構成を工夫し、創造的に表現することができる。(創造的な技能)

b 本時の授業展開

過程	学習活動	指導及び支援
導入	1 前時の活動を振り返り本時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞とアイデアスケッチのワークシートで活動を振り返らせ、立体化の流れをイメージするよう促す。
めあて：アサンブラージュの手法を使って立体化しよう		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展 開</p>	<p>2 立体で表現する。</p> <p>骨組みが完成！ アイデアスケッチに書いた言葉 を意識しながら、色んな素材 を構成していこう！</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチを基に、形や色彩、素材の特性などを踏まえて構成を工夫し、表現のテーマに沿って表現するよう促す。 ・表現の素材をつなぎ合わせる材料が妥当かどうか表現しながら確認するよう促す。 ・表現の素材をつなぎ合わせる場面であまりうまくいかない生徒には、随時サポートを行う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">立体表現の制作過程</p> <p><small>※基本的な流れです。①は必ず必要です。②と③の順序は逆のほうが良い場合もあります。</small></p> <p style="text-align: center; background-color: #ff69b4; color: white; padding: 5px;">①骨組みの制作(針金)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">②土台への固定(土台・釘)</p> <p style="text-align: center;">③素材の構成</p> <p style="text-align: center; background-color: #ff69b4; color: white; padding: 5px;">提示資料(表現の大まかな制作過程)</p> </div> 
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終 末</p>	<p>3 表現を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の鑑賞で気付いたことが表現にどのように生かされたか、ワークシートの視点を基に振り返らせる。

(5) 授業実践における手立ての有効性についての考察

本研究の手立てを取り入れたことで、実感を伴いながら「知識」を習得することができたかについて、鑑賞及びアイデアスケッチのワークシートの記述内容や表現の変容を基に分析しました。本研究では、実感を伴いながら「知識」を習得している姿の具体を次のように捉えることとしました。

- 鑑賞の段階で、〔共通事項〕の内容を整理し示された項目を基に、視点をもって記入している。
- アイデアスケッチの段階で、〔共通事項〕の内容を整理し示された項目に基づいて、アイデアスケッチに言葉の加筆を行っている。
- アイデアスケッチを基にした立体的な表現の段階で、明確なテーマや作品全体のイメージを基にアイデアスケッチを反映させて表現を進めている。

また、実感を伴った「知識」の習得については、上記の姿の具体に基づいてそれぞれ単独で判断できるものではないと考え、段階毎の姿の具体が一連の流れの中でつながりをもっていたかどうかで、手立ての有効性について判断することとしました。表現や鑑賞の活動への意欲が高い生徒X、鑑賞の活動よりも表現の活動への意欲が高い生徒Y、表現の活動よりも鑑賞の活動への意欲が高い生徒Zの活動内容について、それぞれ分析しました。

生徒X「鑑賞の段階」から「アイデアスケッチを基にした立体的な表現の段階」までの分析

生徒Xは、表現や鑑賞の活動への意欲が高い生徒です。鑑賞の段階では、まず個人の活動で2作品の全ての項目について記述していました(次頁資料4下線実線部)。また、他者の意見を積極的に聞き、その内容を加筆していました(次頁資料4下線点線部)。〔共通事項〕の内容を整理し示されたそれぞれの項目に基づいて記入を進めていったと言えます。アイデアスケッチの段階では、表現の具体的なイメージを絵と言葉で表していました。〔共通事項〕の内容を整理し示された項目に基づいた言葉の加筆(次頁資料5下線点線部)と、作品のテーマなどに関する言葉の加筆(次頁資料5下線実線部)が見られました。次頁資料4の記述及び次頁資料5の言葉の加筆を見ると、鑑賞の段階とアイデアスケッチの段階につながりが見られ、鑑賞の段階からアイデアスケッチの段階までは、手立てが有効に働いていたと捉えられます。一方で、アイデアスケッチを基にした立体的な表現の段階では、アイデアスケッチに書いた材料が使用されていなかったり、作品の全体像にアイデアスケッチが十分に反映されていなかったりしました(次頁資料6・次頁資料7)。鑑賞の段

階及びアイデアスケッチの段階と、アイデアスケッチを基にした立体的な表現の段階では、手立ての有効性が見えにくい結果となりました。以上のことから、実感を伴った「知識」の習得には至らなかったと判断するのが妥当だと言えます。

色彩や光の見え方のごと 白 赤 青 黄 緑 紫 黒 白 赤 青 黄 緑 紫 黒	使われている材料のごと 白 赤 青 黄 緑 紫 黒	構成(組み合わせ)のごと 白 赤 青 黄 緑 紫 黒
空間・立体感・動きのごと 白 赤 青 黄 緑 紫 黒	作品全体のイメージ 白 赤 青 黄 緑 紫 黒	

資料 4 生徒 X の鑑賞のワークシート

使用する材料 (使う物まで) 白 赤 青 黄 緑 紫 黒	NO. 1 白 赤 青 黄 緑 紫 黒
作品全体のイメージ 白 赤 青 黄 緑 紫 黒	NO. 2 白 赤 青 黄 緑 紫 黒

資料 5 生徒 X のアイデアスケッチのワークシート



資料 6 生徒 X の表現の様子



資料 7 生徒 X の立体作品

生徒 Y 「鑑賞の段階」から「アイデアスケッチを基にした立体的な表現の段階」までの分析

生徒 Y は、鑑賞の活動よりも表現の活動への意欲が高い生徒です。鑑賞の段階では、〔共通事項〕の内容を整理し示された全ての項目について気付いたことを記述していました(資料 9 下線実線部)。個人の活動は意欲的に行っていましたが、他者の意見を共有する場面での記述は多くありませんでした(資料 9 下線点線部)。アイデアスケッチの段階では、材料に関する記述にとどまっており、具体的な表現のイメージが表されませんでした。しかし、アイデアスケッチを基にした立体的な表現の段階では、停滞することなく表現を続け、作品が完成に近付きました(資料 8)。アイデアスケッチの段階では、ワークシートの記述内容から手立ての有効性を見取ることができず、部分的に見ると手立てが有効だったとは言えない状況でした。生徒 Y については、鑑賞や表現の過程における部分的な分析や見取りが困難でした。一方で、表現の領域に関する技能が高かったことは明確で、アイデアスケッチを基にした立体的な表現の段階で、表現のイメージをもっていた、あるいは表現しながらイメージが広がったと考えられます。いずれにしても、立体的に表現する段階で明確なテーマを基に表現が進められていることから、鑑賞の段階と立体的に表現する段階につながりが見られ、身に付けた「知識」が表現に生かされたと考えられます。アイデアスケッチの段階でワークシートの記述内容から手立ての有効性を見ることが難しかったですが、総合的には、実感を伴った「知識」の習得に至ったと判断するのが妥当だと言えます。

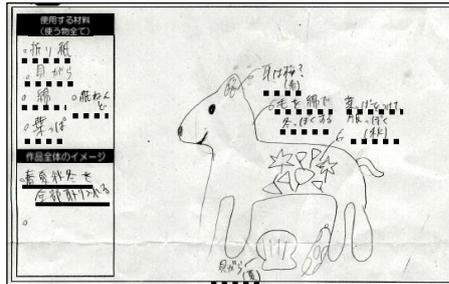


資料 8 生徒 Y の立体作品

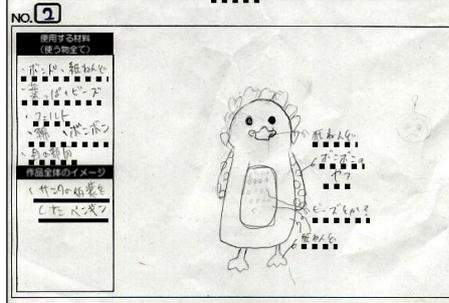
色彩や光の見え方のごと 光が黄色い 青 赤 白 黒	使われている材料のごと 金 銀 銅 鉄 木 紙 布	構成(組み合わせ)のごと 白 赤 青 黄 緑 紫 黒
空間・立体感・動きのごと 下 上 左 右 前 後	作品全体のイメージ 白 赤 青 黄 緑 紫 黒	

資料 9 生徒 Y の鑑賞のワークシート

生徒 Z 「鑑賞の段階」から「アイデアスケッチを基にした立体的な表現の段階」までの分析



資料 12 生徒 Z の表現の様子



資料 10 生徒 Z の鑑賞のワークシート 資料 11 生徒 Z のアイデアスケッチのワークシート 資料 13 生徒 Z の立体作品

生徒 Z は、表現の活動よりも鑑賞の活動への意欲が高い生徒です。鑑賞の段階では、ほとんどの項目について記入ができていました（資料 10 下線実線部）。また、他者の意見も積極的に加筆してありました（資料 10 下線点線部）。〔共通事項〕の内容を整理し示されたそれぞれの項目に基づいて記入を進めていったと言えます。アイデアスケッチの段階では、表現の具体的なイメージを絵と言葉で表していました。〔共通事項〕の内容を整理し示された項目に基づいた言葉の加筆（資料 11 下線点線部）と、作品の全体のイメージやテーマに関する言葉の加筆（資料 11 下線実線部）が見られました。資料 10 の記述及び資料 11 の言葉の加筆を見ると、鑑賞の段階とアイデアスケッチの段階につながりが見られ、鑑賞の段階からアイデアスケッチの段階までは、手立が有効に働いていたと捉えられます。アイデアスケッチを基にした立体的な表現の段階では、完成には至りませんでした。当初のイメージ通りの表現ができていました（資料 12・資料 13）。鑑賞から立体の表現に至る一連の活動の中で手立が有効に働き、身に付けた「知識」が生かされたと考えられます。以上のことから、実感を伴った「知識」の習得に至ったと判断するのが妥当だと言えます。

(6) 実態調査の結果を基にした手立ての有効性についての考察

検証授業の事前実態調査及び事後実態調査結果（表 5・次頁表 6）を基に、手立ての有効性を分析しました。

表 5 事前実態調査及び事後実態調査を基にした意識調査の結果② …〔共通事項〕に該当する具体的な回答

質問:鑑賞するときにはどのようなところに注目していますか。			
事前の回答	人数(人)	事後の回答	人数(人)
分からない・無回答	9	作者の気持ちを感じ取る	7
色	7	分からない・無回答	4
形	5	明るさ	3
工夫されているところ	5	どんな材料でつくられているか	3
作者の思い・意図	4	配色	2
作品の明るさ	3	背景や物	2
人の表情・顔	3	特徴的なところ	2
描かれているもの・対象	1	全体	2
構図	1	人の表情	2
作品の特徴	1	細かい部分や全体像	2
雰囲気	1	工夫されているところ	2
時間	1	形	2
大切な部分	1	変わってるなと思うところ	1
丁寧さ	1	思ったことや考えたこと	1
場所	1	思いを想像する	1

見たい	1	行動	1
全体と部分の関係(背景から主役)	1		
細部	1		

表 6 事前実態調査及び事後実態調査を基にした意識調査の結果① ……事後のポイントが増加

質問	選択肢	割合	
		事前 n=31	事後 n=30
(1) 美術科で学んだ「知識」が生かされることはありますか。	1 よくある	3%	23%
	2 少しある	48%	40%
	3 あまりない	35%	27%
	4 ない	14%	10%
(2) 「表現」の授業が好きですか。	1 とても好き	33%	45%
	2 どちらかといえば好き	43%	39%
	3 あまり好きではない	17%	13%
	4 好きではない	7%	3%
(3) 「鑑賞」の授業が好きですか。	1 とても好き	17%	26%
	2 どちらかといえば好き	23%	42%
	3 あまり好きではない	53%	22%
	4 好きではない	7%	10%

3 頁図 1 で示したとおり、生きて働く「知識」は段階的に習得されていくものであり、「実感」を伴った『知識』の習得の先にある表現する喜び、鑑賞する喜びと、2 領域の活動が好きかどうかは密接な関係にあり、美術と主体的にかかわる意欲につながると考えています。そこで、3 頁図 1 のイメージを基に、実感を伴った「知識」の習得に関しては前頁表 5 及び表 6 の (1) の質問項目に対する回答を、表現する喜びや鑑賞する喜びに関しては表 6 の (2) 及び (3) の質問項目に対する回答をそれぞれ参考にし、本研究の手立ての有効性について考察することとしました。

「鑑賞するときにはどのようなところに注目していますか」の質問に対しては、前頁表 5 のような回答が見られました。事前と事後で〔共通事項〕に関する具体的な回答が数的に増加はしていませんでしたが、材料に関する回答や全体と部分を見ることに関する回答が多くなっており、〔共通事項〕の内容を具体的に提示したことが、生徒が新たな鑑賞の視点をもつことにつながったと考えられます。また、この質問に対して「分からない」と回答した生徒もしくは「無回答」だった生徒が 5 人減少しており、本研究の手立てを通して新たに何らかの鑑賞の視点をもった生徒がいたことも分かりました。「美術科で学んだ『知識』が生かされることはありますか」の質問に対しては、「よくある」と答えた生徒が 20 ポイント増加しました(表 6)。以上のことから、本研究の手立てが有効に働き、実感を伴った「知識」の習得につながったと考えられます。

『表現』の授業が好きですかの質問に対しては、「とても好き」と答えた生徒が 12 ポイント増加、『鑑賞』の授業が好きですかの質問に対しては、「とても好き」と答えた生徒が 9 ポイント増加しました(表 6)。「鑑賞」の授業が好きですかの質問に対して「好きではない」と答えた生徒が 3 ポイント増加してはいるものの、「どちらかといえば好き」と答えた生徒が 19 ポイント増加していました(表 6)。これらのことから、総体的に見れば 2 領域の活動に対する生徒の意識がそれぞれ高まっていると捉えられ、本研究の手立てが有効に働き、表現する喜び、鑑賞する喜びにつながったと考えられます。本研究では、生きて働く「知識」の習得における、鑑賞の活動から表現の活動に生かす部分に焦点を当てました。本研究の活動が次の鑑賞の活動や表現の活動に生かされながら 2 領域を往還することになり、最終的に生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力につながっていくと考えます。

《引用文献》

- (1) (2) (8) 文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成 29 年 3 月
- (3) (4) (5) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説美術編』 平成 29 年 7 月
- (6) 中央教育審議会 『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』 平成 28 年 8 月
- (7) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説総則編』 平成 29 年 7 月